

私たちの町の文化財

速報！上代遺跡

■第2話 薬仏治療

こんにちは。新年から上代の発掘調査速報を開始しましたが、第2回目にして脱線です。今回は調査地近くにある高野辺田の洞仏についてお話します。

空海ゆかりの独鈷伝説が残る独鈷山南麓にある石窟に、4体の石仏と板碑が静かに安置されています。石仏4体はいずれも薬師如来像で、薬師如来は人々の病を治して病苦から救う医薬の仏様です。台座に刻まれた文字によれば、右端の石仏が1319年の作で最も古く、1325年に左端の石仏が作られる。中央の2体は、先の薬師像2体が荒廃したのを惜しんで、江戸時代にこれらを真似て彫られた像とみられます。脇にある板碑には臨終の信者を迎えに、極楽浄土からこの世に阿弥陀仏が現れる光景が線刻される。刻まれた銘によれば1530年頃のものらしい。

石仏と板碑のある山裾は、静かな独特の雰囲気があって穏やかな心地になりました。薬師如来の薬壺に入った妙薬は、心の傷にも効くみたいですね～！？

熊本市文化振興課 原田範昭氏

速報上代遺跡第二弾は
薬師如来像…
作成年って一体一体に
彫りこんであるのかな

